

活動名	海外で伝えたい日本の魅力を考える ～外国人が知りたい日本とは～
代表者氏名・所属	越智由紀子：人間文化創成科学研究科比較文化学専攻
構成員氏名・所属	能村悠里：人間文化創成科学研究科比較文化学専攻 生駒有紀：人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻 諏訪園真子：人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻 山王綾乃：人間文化創成科学研究科比較文化学専攻

『海外で伝えたい日本の魅力を考える～外国人が知りたい日本とは～』という題で、2回のワークショップを開催しました。これから海外に行く日本人学生、日本に滞在している外国人留学生、海外や留学に関心のある学生を主にターゲットとした試みです。

第一回は、6月29日（水）10:00～12:00（受付9:30～）で、能楽師の金子敬一郎師をお招きし、能楽の知られざる魅力について講演していただきました。10数名の学生及び教職員が参加し、アイスブレイクの後、講演が行われました。その後、金子師と本学教授で伝統芸能に詳しい神田由築先生との対談を行いました。参加者の疑問に応えながら自由な議論が交わされました。

第二回は、6月30日（木）15:00～16:00（受付14:30～）に、石川県の酒造で杜氏をされている後藤由梨さんをお招きし、日本酒についてのお話をお聞きしました。10数名の学生及び教職員が参加し、酒造の現状をはじめ、日本酒にまつわる様々なお話を伺いました。

各回、学年や学科などの違う学生の交流を実現することができました。また、留学生の参加は、時間の都合もあり、第二回のみでしたが、少なからず関心を持っている留学生がいることは把握できました。しかし、当初の目標であった参加者同士で『海外に伝えたい日本の魅力を考える』という議論の場を設けるという点に関しては、我々主催の力不足もあり、達成できていないと言えます。しかし、今回のワークショップで参加者の日本への理解を深め、魅力を再発見するためのきっかけにはなったと感じています。そして、活動の構成員の5人中4人は現在留学中であり、実際に日本をPRする場にいます。今回の活動をバネに、より深い見識に基づいた日本のPRを行いたいと考えております。



↑ 神田教授と金子師



↑ 宮本さんと新井教授



↑ 宣伝用ポスター